

平成 19 年 9 月 3 日

定期検査中の 2 号機原子炉建屋低電導度廃液サンプルピットへの  
水の流入の調査結果について

東京電力株式会社  
福島第二原子力発電所

定期検査中の 2 号機において、平成 19 年 7 月 30 日午前 11 時 47 分頃、原子炉建屋地下 2 階（管理区域）にある低電導度廃液\*<sup>1</sup>サンプルピット\*<sup>2</sup>（堰）へ水が流入したことを示す警報が発生したため、当直員が現場を調査したところ、同サンプルピット内に水が溜まっていることを確認しました。

溜まった水の量を測定した結果、約 75 リットル、放射エネルギーは約  $2.0 \times 10^7$  ベクレルであることがわかりました。

水は同サンプルピットの堰内にあり、外には出ていないことを確認し、同日、仮設ポンプを使って回収し、同サンプルピット内の清掃を行いました。

なお、これによる外部への放射能の影響はありません。

また、平成 19 年 8 月 16 日午前 8 時 31 分頃、当該サンプルピット（堰）へ水が流入したことを示す警報が発生したため、当直員が現場を調査したところ、同サンプルピット内に水が溜まっていることを確認しました。

溜まった水の量を測定した結果、約 75 リットル、放射エネルギーは約  $1.0 \times 10^7$  ベクレルであることがわかりました。

水は同サンプルピットの堰内にあることを確認しており、同日、仮設ポンプを使って回収し、同サンプルピット内の清掃を実施しました。

なお、これによる外部への放射能の影響はありません。

（[平成 19 年 7 月 31 日](#)、[8 月 16 日](#)お知らせ済み）

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・当該サンプルピットへの水の流入は、当該サンプポンプの吐出配管等から漏えいしたものではなかったこと。
- ・当該サンプより上流側にある原子炉格納容器内低電導度廃液サンプに水を張り、当該サンプへつながっている隔離弁を開けたところ、当該サンプの排出口に設置されている飛散防止治具\*<sup>3</sup>の上部隙間から排出された水が飛散し、当該サンプルピットへ流入すること。

当該サンプルピットへ水が流入した原因は、原子炉格納容器内低電導度廃液サンプに溜まっていた水が、当該サンプへつながっている隔離弁を開けたことにより、通常時に想定された流量を超えて当該サンプに排出され、当該サンプの排出口に設置されている飛散防止治具内面に当たって跳ね返り、当該治具の上部隙間から飛散して流出したものと推定しました。

対策として、当該サンプへ通常時に想定された流量を超える水が排出されても、飛散防止治具の上部隙間から水が飛散し、サンプピットに流入しないよう当該治具上部に蓋を設けるとともに、水の跳ね返りを抑えるため、形状を大きくすることとします。

以 上

\* 1 : 低電導度廃液

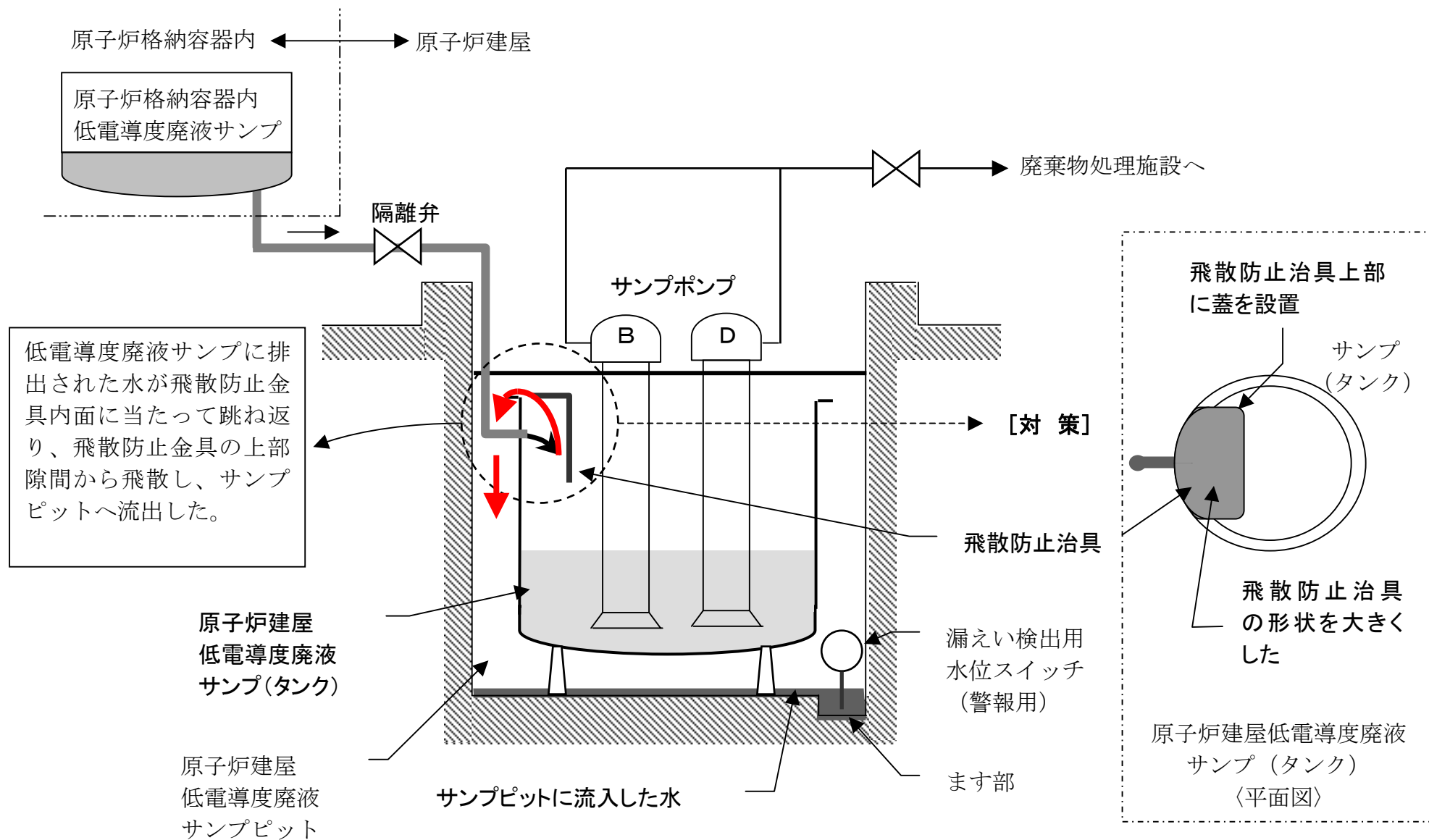
各建屋内の機器からの排水、試料採取の廃液等。

\* 2 : サンプピット

廃液を受けるタンク周りに設置された堰（せき）。

\* 3 : 飛散防止治具

当該サンプの原子炉格納容器低電導度廃液サンプからの排出口は、同サンプ上端に近い位置で横向に接続されていることから、排水がサンプポンプの吸込配管に直接当たり、飛散することを防止するため、当該排出口に飛散防止治具を設置している。



原子炉建屋低電導度廃液サンプ概略図